



**矢部川** 7月14日、午後1時20分ごろ、江崎地区の津留橋北の矢部川堤防が決壊  
(14日、午後1時36分撮影)



**沖端川** 7月14日、午前8時50分ごろ、立花いこいの森北側の沖端川堤防が決壊  
(14日、午前8時55分撮影)

# 平成24年7月14日九州北部豪雨 堤防決壊



激しく流れ込む矢部川の水 (14日、午後1時36分撮影)



中山地区に流れ込む濁流 (14日、午前10時52分撮影)



みやま市側から見た決壊箇所 (14日、午後2時55分撮影)



濁流にのまれる軽トラック (14日、午後0時15分撮影)

戒本部を設置。7時30分には災害対策本部に切り替え、堤防から水があふれ出した箇所に土のうを積むなどして水害の発生を防ごうとしました。しかし、その後も水位は上昇し、矢部川、沖端川ともに氾濫危険水位を超える危険な状態になったため、7時50分に市内全域に避難勧告を発令。沖端川流域の浸水が始まったことから8時50分に避難指示に切り替えると、時を合わせるように中山地区の立花いこいの森北側で沖端川堤防が決壊。午後1時20分ごろには、江崎地区の津留橋北側の矢部川堤防が決壊し、市内の広い範囲にわたって洪水が発生しました。

7月14日、市を水害が襲いました。対馬海峡付近に停滞した梅雨前線は、11日から14日まで九州北部に激しい雨をもたらし、市では4日間に415mmの降水量を記録。特に13日から14日にかけて雨脚が強まり、13日、午前7時10分からの24時間雨量は281mmにも及びました。矢部川水系の上流、八女市黒木町では、それ以上に激しい雨が降り、13日、午前11時30分から24時間に486mmの雨を観測。上流で降った雨は、矢部川とその支流、沖端川に流れ込み、水位を上げました。矢部川と沖端川の水位の上昇に対応し、市は14日の午前5時15分に災害警



矢部川からの水で水浸しになった大和中学校のグラウンド (14日、午後4時27分撮影)



堤防決壊からおよそ9時間が経過した中山地区の様子 (14日、午後6時4分撮影)



六合地区の住民に矢部川堤防の決壊を知らせ避難を呼びかける消防団員 (14日、午後1時42分撮影)



三橋公民館には316人が避難 (14日、午前9時56分撮影)

# 浸水

沖端川と矢部川から流れ込んできた水で、市内の広い範囲に洪水が発生しました。それ以外にも激しい雨の影響で市内のあちこちで洪水が発生。市内のおよそ3分の1が冠水しました。住宅の床上浸水は376戸、床下浸水は952戸にも及びました(7月22日現在)。また市内の幹線道路も冠水し通行止めも発生。被災者の救助に向かう消防署の車両も、大きく迂回しなければならなかったほか、避難者への食事の配送は、車が通れるまで水が引くの待たなければいけませんでした。



午後9時を過ぎても冠水したままの中島小学校付近 (14日、午後9時34分撮影)

# 避難

市内全域への避難指示に従い、市内の小中学校や市立公民館などに2863人が避難しました。避難所の中には周囲の冠水がひどく、一時的に孤立する事態も発生。堤防が決壊した中山地区では、自宅の2階に避難した人も多く、柳川消防署の署員がゴムボートを使って救出しました。また、最後まで取り残されていたサンブリッジに避難していた約40人は、午後11時過ぎ、市からの要請を受けて派遣された陸上自衛隊第4特科連隊第5大隊の隊員がボートを使って三橋庁舎に移しました。



有明小学校に避難している住民に食事を届ける公民館長と市職員 (14日、午後9時19分撮影)

沖端川からの濁流で水没した立花いこいの森の駐車場 (14日、午前10時29分撮影)



中山地区で自宅の2階に避難していた住民を安全な場所へ誘導する消防署員 (14日、午後6時45分撮影)





中山地区の被災した民家からがれきを運び出すボランティア（19日、午前10時22分撮影）



沖端川から押し寄せてきた濁流と流木で倒壊した中山地区のビニールハウス（18日、午前10時31分撮影）

# 復興へ

15日、浸水のひどかった地域も水が引き、後片付けが始まりました。中山地区では家の内外や道路に泥土がたまり、それを取り除く作業に追われました。家々からは水に漬かって使えなくなった家具や畳など大量のがれきが発生。消防団や市職員が泥やがれきの搬出を手伝ったほか、22日までに1000人を超えるボランティアが現地入りしました。このほか16日に小川県知事をはじめ、20日には野田総理、21日には岩本農林水産副大臣が現地を視察。市長が復興支援を強く求めました。



中山地区の道路にたまった泥土をバキュームカーで吸い込むことを試みた（15日、午後2時17分撮影）

# 爪痕

堤防が決壊した中山地区と六合地区は、流れ込んできた流木や土砂で重大な被害を受けました。特に中山地区では被害が大きく、ビニールハウス15棟が押しつぶされたほか、広い範囲の田が泥で埋まりました。また中島漁港では漁船が流されたり、荷揚げ用のクレーンが倒れたりしたほか、海岸に大量の流木が押し寄せ、ノリのシーズンを前に深刻な事態となっています。このほか、中山地区の事業所では、加工用機械が水没し使えなくなるなどの被害が発生しました。



矢部川から流入した土砂で埋まった江崎地区の農地（15日、午前7時15分撮影）

民家から使えなくなった冷蔵庫の搬出を手伝う消防団員（15日、午後1時48分撮影）



矢部川の堤防決壊現場で野田総理（左から2番目）に被災状況を説明する金子市長（20日、午後6時38分撮影）

大量の流木で埋まる有明海岸（15日、午前10時26分撮影）



漁港の設備に大きな被害が発生した中島漁港（15日、午前10時5分撮影）